

# 3. 公園とまちづくり ~アメリカ・ポートランドの事例~

## 「世界で最も住みやすい都市 第1位」

2012年 イギリス「ザ・ガーディアン紙」

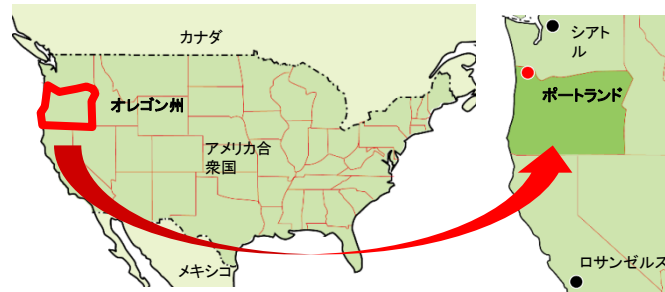
そのほかにも...

- ・最も住んでみたい都市
- ・歩いて暮らせるように設計された都市
- ・自転車通勤に適した都市
- ・全米で注目の美食の都市
- ・人とペットに優しい都市
- ・環境に優しい都市
- ・自然とともに経済成長をする都市
- ・持続可能な(サステナブル)都市
- etc.

## ポートランドの概要

### 【場所】

アメリカ合衆国オレゴン州北西部マルトノマ郡にある都市で、同州最大の都市かつ同郡の郡庁所在地である。



### 【経済】

- ① 全米でも屈指の港湾都市(世界第2位小麦取引港)
- ② 金属産業、木材産業、IT産業、スポーツアパレル集積地  
インテル社、IBM社、ゼロックス社  
ナイキ、アディダス、コロンビア・スポーツウエア
- ③ ワイナリー(ピノ・ノワール種)、地ビール醸造所など多数

⇒2008年以来、全米で最も国内総生産(GDP)の成長率が高い都市はポートランド市で、22.8%の成長率を記録。ニューヨーク市は、わずか6.3%

### 【沿革・風土】

- ポートランド市は、独自の価値観を持って、住民自らがコミュニティを作ってきたという土壌と歴史がある街。
- 1960年代にヒッピーの人たちが集まってコミュニティを作っていた場所であるため、リベラルで自治の意識が強く、文化に対する感度も高い人たちが集まっていたのが発祥。
- 独立精神が旺盛で、クリエイティブな人たちが集まるため、独自の文化やライフスタイルが現在まで育ってきたという歴史がある。
- 大手の小売チェーンのようなものも排斥して、個人商店やオーナー・レストランのようなもので街をつくっていく。
- クラフトマンシップを大切に、地産池消、サステナビリティ(持続可能性)といった意識も高い。

## 都市計画制度

### ○広域地域政府(Metro)

1978年有権者の承認を得て作られた米国で唯一直接選挙によって選ばれる地域政府で、ポートランド市を含むオレゴン州3郡、25都市で構成され、交通機関の発展計画や土地管理戦略を地方政府と連携して行う。1979年には、無秩序な都市拡大を防ぎ、自然や農地を守る目的で、「都市成長境界線」(UGB)が設定され、ポートランドを含む25の自治体が境界線を引き、都市開発をする範囲を境界線内に制限された。(UGBは5年ごとに見直し)

## 市民参加システム

### ○ネイバーフット・アソシエーション (Neighborhood Association)

1930年代から活動する近隣組合で、ポートランド市がその存在を公式に認めたのは1970年代。現在、95団体が市に登録し、90団体が7つの連合を形成。すべてが公式の市民参加団体として認められている。住民自らの自発的な活動であり、その運営の中心となる役員は選挙で選ばれるボランティアで、報酬はない。

## 自然環境への配慮の取組み

- コンパクトシティ化(20分の街)
- ゴみの減量・リサイクル率上昇への支援
- 環境対応型設計、建築
- 公共交通網の整備
- 自然地域の保護

## 「バラの街」としてのポートランド

### 【公式愛称】

温暖な気候によりバラの栽培に非常によく適しているため、市内には国際バラ試験農園を筆頭として多くのバラ園が散在し、ポートランドは100年以上に渡り「バラの街」(The City of Roses)の異名で知られ、最も一般的な愛称ともなっており、2003年には市の公式愛称に採択された。

### 【イベント】

1907年から100年以上続く歴史を誇るバラの祭典「ポートランド・ローズ・フェスティバル」が開催される。花で飾られた山車が繰り出すパレード、ドラゴン・ボートレース、花火大会、カーレース、スキーレース、コンサートなどで町中が盛り上がる。バラの品評会、ローズクイーン・コンテストなどイベント期間中は、世界中から観光客が訪れる。

## <国際バラ試験庭園>

(International Rose Test Garden)

全米で最古の公立バラ園(1917年設立)。「ワシントン公園」内にあり、同公園には他に、全米最多の2,000種近くの樹木や植物が植えられたホワイト樹木園や日本庭園、オレゴン動物園、世界森林センター、子ども博物館等も併設。



- <DATA>
- ・敷地面積: 約1.8ha
  - ・品種数: 約650種
  - ・株数: 約10,000株
  - ・営業時間: 7:30-21:00
  - ・入場無料
  - ・ボランティアツアー有
  - ・ペット入園可

## ポートランド市に学ぶ都市戦略

- 市民主体の計画的なまちづくりによって、都市生活と農村生活が隣接し、容易に行き来できる自然環境に配慮した都市が生まれる。
- 自然に囲まれた暮らしにより、ストレス・フリーで多様性に寛容な暮らし方となり、犯罪も減少、多様な価値観を発信し合えるコミュニティが生まれる。
- 都市環境文化の魅力が向上し、移住者が増える。
- 創造性のある人が集まることで新たな付加価値が生み出され、経済的に発展する。